

『ルポ 誰が国語力を殺すのか』の著者 石井光太氏をお招きして

～みんなで考えませんか？すべての子どもたちが必ず出会う“学校図書館”で何ができるかを～

「国語力は必ずしも書物によってのみ養われるものだとは思っていない。時代の流れの中で、スマホやパソコンで文字を読み書きする機会が増えるのは自然なことだし、人と意見を交わして養う国語力もある。ただし、現在私たちがインターネットを通して触れている日本語は、本当に先のような力を養うものになっているだろうか。」

(佼成新聞デジタル 2020. 10. 26 寄稿より)



7月27日、作家・石井光太氏の『ルポ 誰が国語力を殺すのか』が文藝春秋より出版されます。これまでも子どもたちを取り巻く困難に目を向け、丁寧な取材のもと、何冊もの本を出版されてきた石井氏。以前お招きした講演会では、「学生時代、尊敬する先輩に、『新書を100冊読んでみなさい』と言われ、自分の好きな分野から読み出し、さらには巻末の参考文献を頼りに、その数を増やして行って、自分を取り巻く世界が広がっていった」というお話が、とても印象的でした。

このたびの出版を受け、学校図書館関係者としてはぜひお話を伺いたく、複数の団体による合同企画で、オンラインによる学習会を開催いたします。この機会に、石井氏が取材で感じたことをお聞きしながら、「学校図書館」で何ができるのかを、みんなで一緒に考えてみませんか？

募集定員	300名
日時	2022年9月4日(日) 14:00～16:00
参加費	無料
募集期間	2022年7月20日～2022年8月31日
申込方法	下記アドレスからお申し込みください。

<https://forms.gle/ij6BP3ZyxkSLyZcy7>



【講師略歴】

石井光太 1977年生まれ、作家。国内外の災害・貧困・事件などをテーマに取材・執筆活動をおこなう。著書に『みんなのチャンス』（少年写真新聞社）『世界の美しさをひとつでも多く見つけたい』（ポプラ社）など。

公式ホームページ『KOTAISM.COM』 <http://www.kotaism.com/>

- 共催 学校図書館問題研究会東京支部
東京学芸大学附属学校司書部会
東京学芸大学附属世田谷中学校図書館部
日本教育大学協会学校図書館部門
- 後援 東京学芸大学学校図書館運営専門委員会
東京都立高等学校学校司書会